

原水爆禁止世界大会 報告会

「平和に生きる」思い新た



平和に生きる
賞をうけて これからどうたたかうか 平和のために～
長友会（長野県原爆被害者の会）副会長 前座明司

諏訪市協議会

原水爆禁止諏訪市協議会（宮坂茂雄会長）は6日、8月3～9日に広島県、長崎県で開催された「原水爆禁止世界大会」の参加報告会を諏訪市公民館で開いた。同協議会を代表して参加した4人が学びや感想を話したほか、長野県原爆被害者の会（長友会）副会長で、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）全国理事の前座明司さん（77）＝松本市＝による講演会も実施。約30人が参加し、平和を目指す思いを新たにした。

↑ 原水爆禁止世界大会報告会で講演する前座明司さん

核廃絶 決意後世に

さんは改めて核兵器のない世界の実現に向けた強い決意を持つことができた。後世代々に語り継いでいく必要を感じる」と決意を口にした。

前座さんは「平和に生きる」と題して講演。昨年10月の日本被団協のノーベル平和賞受賞が決まったときは「涙が流れるほどうれしかった」といい、「受賞したことで、皆さんに被爆者の思いを知ってもらうことができてよかった」と振り返った。

昨今の社会情勢については「核保有こそ防衛の一番安上がりな方法」などと言う議員も出てきている。30年ほど前では考えられないこと。非常に危ない状態になっている」と警鐘を鳴らし、「今年7月に日本被団協、原水協、原水禁が共同声明を出してくれたことは非常にうれしかった。これからも一緒に進んでいければと思う」と話した。

（作増唱太）